

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 高見 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

高見 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成26年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成27年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を、わずかが上回ることができた。全体的に全国平均と同等の正答率であった。 ・文章を読み取る問題は正答率が高いが、漢字の読み書きなどの学力を問う問題の正答率は低かった。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・話の内容に対する聞き方を工夫する問題や、文章から必要な情報を読み取る問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・文の主語を選択する問題や筆者の主張する言葉や文節を書き抜く問題は、正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を、上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。 ・文章から登場人物の心情や場面を想定する問題について高い正答率が見られた。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・文章と図などの資料を関連づけて自分の考えを記述する問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・目的に応じ必要な情報を適切に書き抜く問題は、正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を、わずかが上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。 ・整数・小数の計算問題の正答率が高いが、分数の計算の正答率が低い。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・小数の計算問題や、グラフから必要な数値や事柄を読み取る問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・分数の計算問題や、分度器を活用する問題、展開図から立体の面や辺の位置関係を考える問題は、正答率が低かった。	

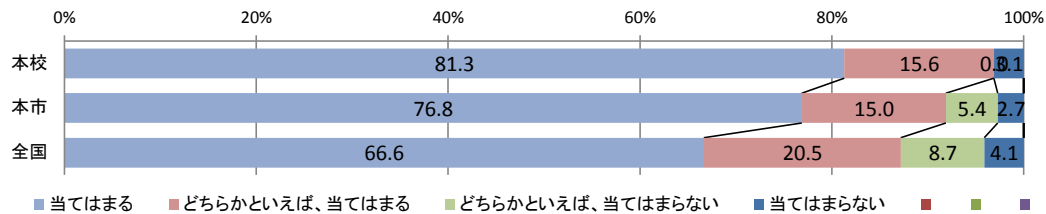
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を、上回ることができた。全体的に全国平均よりも高い正答率が見られた。 ・高い正答率の問題については全国平均に比べかなり高い得点率であったが、低い正答率の問題については全国平均に比べかなり低いという極端な傾向が見られた。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・示された情報から必要な数値を読み取り、割引後の値段を求める割合の問題、複雑な図形の面積を求める問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・平行四辺形の特徴を選ぶ問題は、正答率が低かった。	

理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均を、大きく上回ることができた。多くの問題で全国平均よりも高い正答率が見られた。 ・多くの問題で全国平均を大きく上回る正答率が見られた。正答率が全国平均を下回った問題もあったが、全国平均との差をわずかな問題がほとんどであった。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・方位について調べる問題、磁石に関連する問題は、正答率がとくに高かった。	
	努力が必要な問題	・顕微鏡の使い方に関する問題や、星座と雲の動きについて示された観察記録を基に考察して分析する問題は、正答率が低かった。	

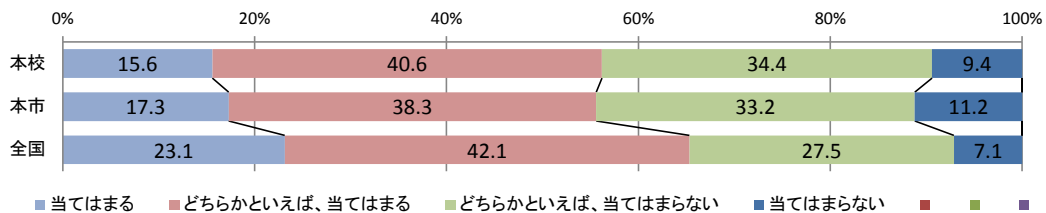
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

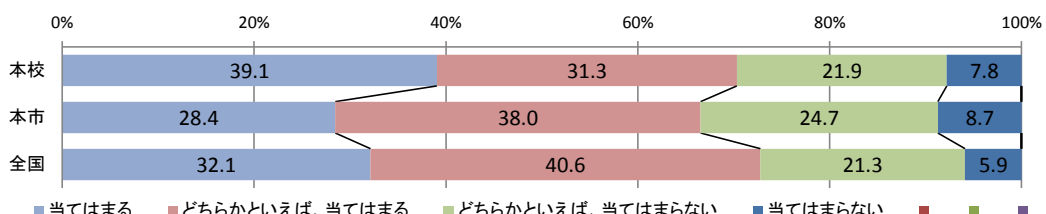
43
授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか。



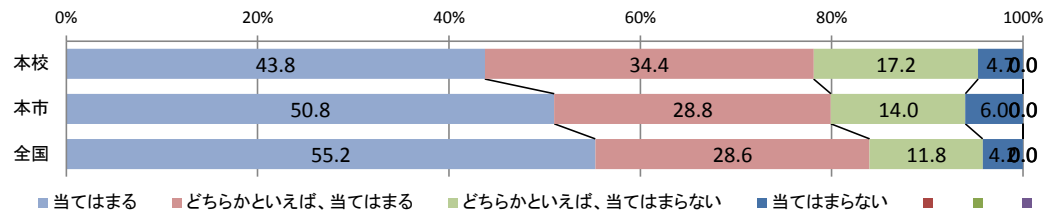
53
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。



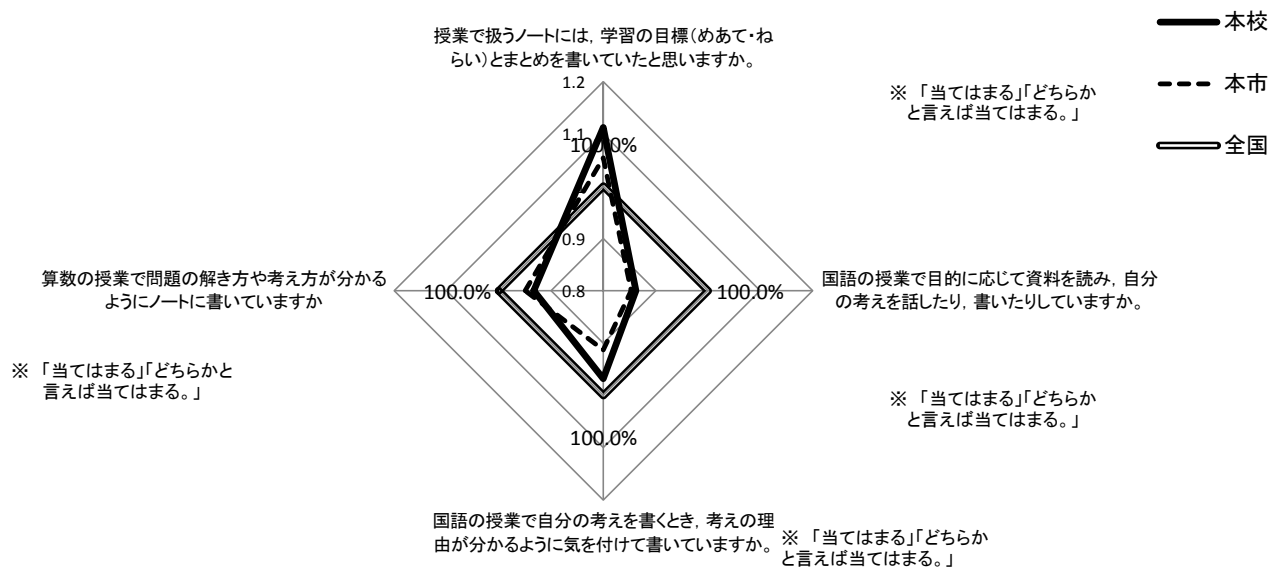
55
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。



67
算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

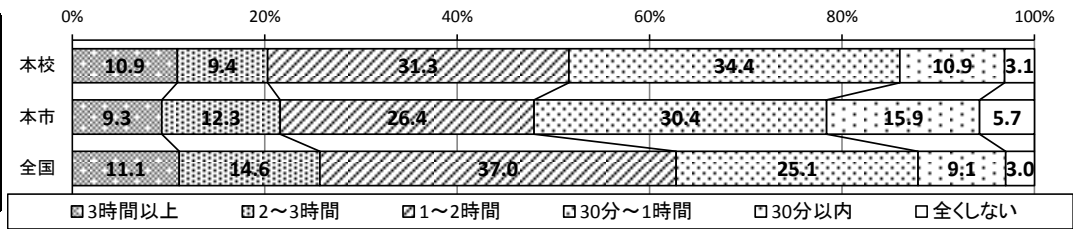
・本校の学力向上プランとして、昨年に引き続きノート指導の充実を掲げてきている。上のグラフを見ると、めあてとまとめの記述については、全国、本市を上回る結果を示している。このことから書くことについての指導は充実してきている。しかしながら、自分の考えをノートに書くことに関しては、全国よりも「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は少ない。このことから、教師の提示した事柄を書き取ることはできているが、自分の考えをノートに自分なりにまとめていくようなノート作成にはいたっていないと考えられる。思考力・判断力・表現力の向上を図るためにも、ノート指導の充実をさらに図るため、自分の考えを書いて整理してから説明するなど、自分の考えを書く機会を増やす必要がある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

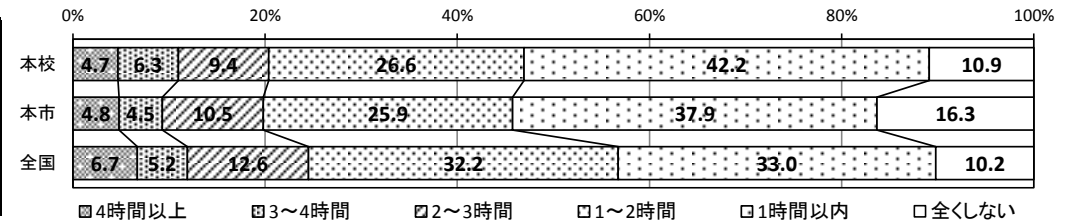
① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

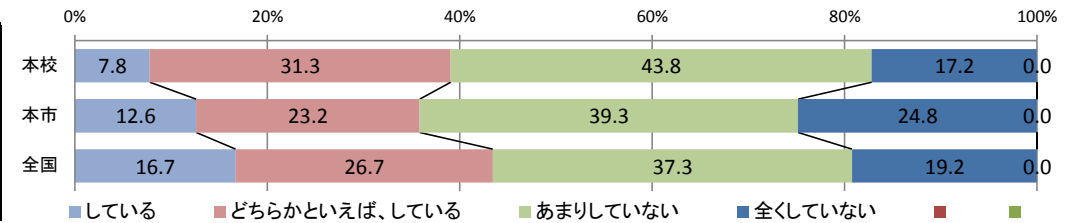
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



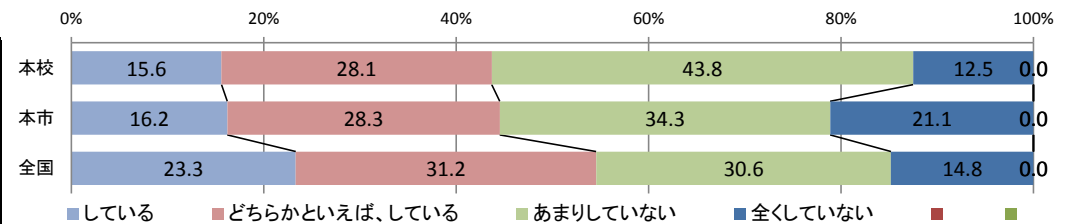
14
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)



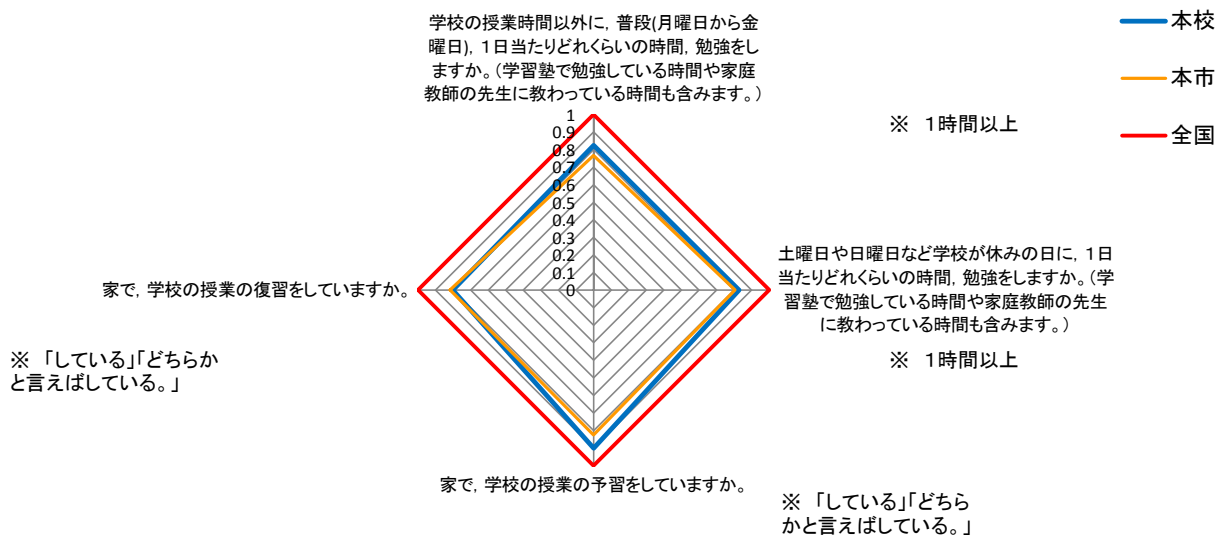
22
家で、学校の授業の予習をしていますか。



23
家で、学校の授業の復習をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



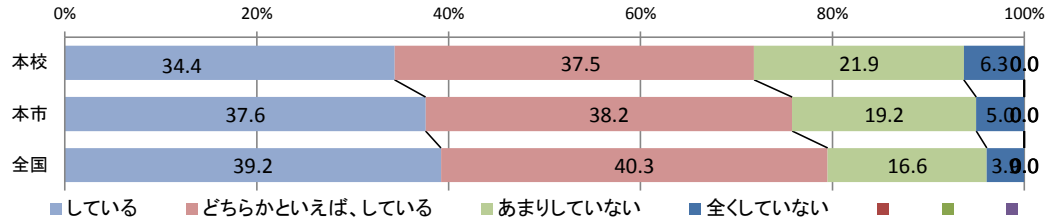
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・家庭での学習時間についての調査については、平日、土日ともに、本市と比べればよくできている傾向が見られるが、全国平均と比べると学習時間が少ないという傾向が見られる。平成25年度、26年度、27年度のデータを比較すると、年々1時間以上家庭学習をしている児童の割合が減少している傾向が見られ、課題としてあげられる。中学校での家庭学習の習慣づくりのためにも、家庭学習の時間のめやすを示したり、予習や復習についての家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある。

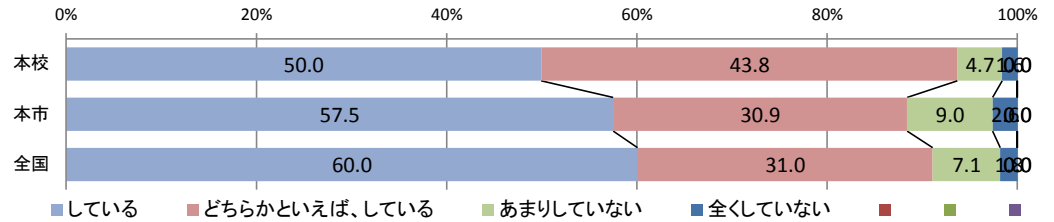
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

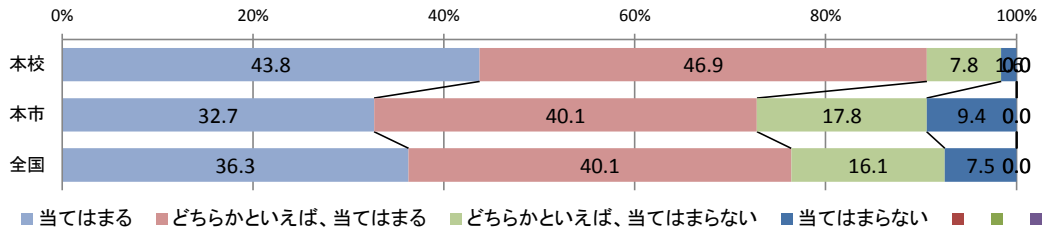
2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



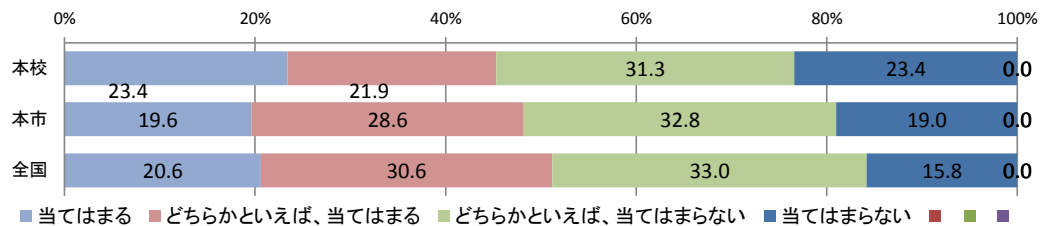
3
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。



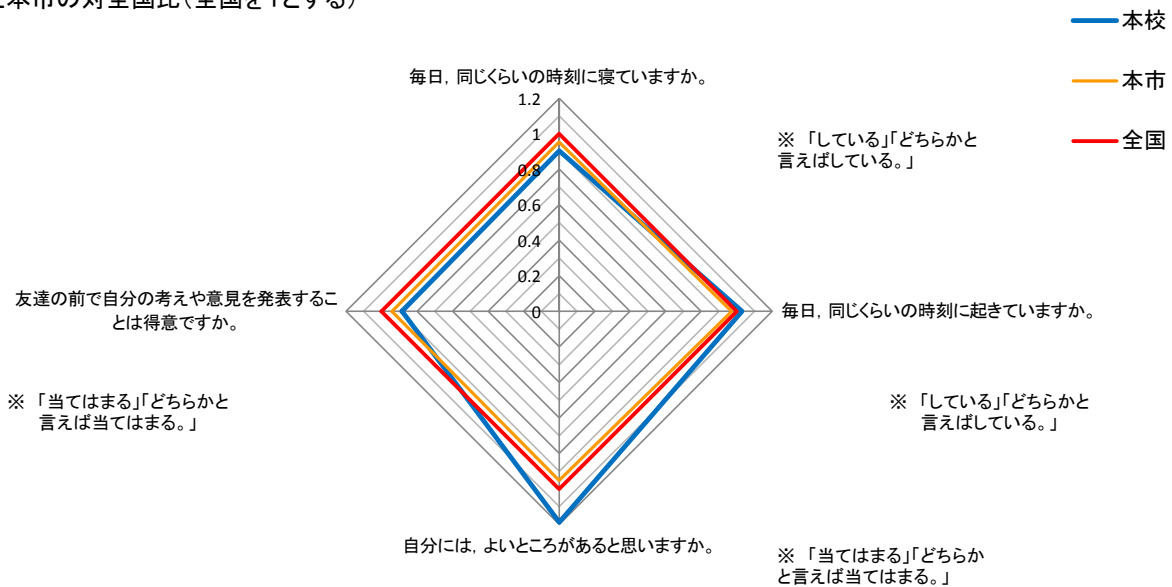
6
自分には、よいところがあると思いますか。



7
友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・起床時刻、就寝時刻については、全国よりも不安定であるという回答が見られる。特に就寝時刻については、不規則な傾向が強い。規則正しい生活習慣づくりについての指導を充実させていく必要がある。

・「自分のよいところ」については、多くの児童が自信や自尊心をもっているという良い傾向が見られた。

・上に挙げた自分に対する自信や自尊心を「自分の考えを人前で発表する」という機会に生かしていく必要がある。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・チャレンジタイム(国・算の基礎問題・応用問題を解く特設の時間)を月・木曜日の朝に実施。(担任・少人数指導で計画的に行う)
 - ・小中連携サポーター・・・計画的な配置、活動補助、プリント整備。
※高学年を中心に回り、中学校へつなぐために、基礎学力を向上させる個別指導を行う。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・音読暗唱ブック「ひまわり」を毎朝、また、国語科学習の始業時に音読する。(担任)
 - ・高学年においては、少人数指導担当教諭が中心となり、学力調査の過去問やアシストシート、活用するワーク等の問題を授業やその他の時間で指導を行い、学力の向上を図る。(少人数指導・担任)
 - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。(担任)
- 「書く」ことを習慣化
 - ・学習の最後に、ノートに振り返りを書くようにする。(担任・少人数指導)
 - ・自分の考えをノートに書く機会を増やすとともに、授業改善に努める。(担任・少人数指導)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎ 宿題のスタンダード化(高見中学校区で目指す児童・生徒の10のすがたと取組の内容に基づく)
 - ・家庭学習の習慣化を図る宿題の提示。
※各学年に応じ、宿題の量を工夫する。低・中・・・30分間～1時間、高・・・1時間以上を目安(担任)
 - ※宿題の提出については担任がその日の内にチェックする。また、家庭学習をしない習慣がつかないように、宿題を忘れる頻度が多い児童に対しては、担任外が休み時間等を用いて指導する。(担任・学力向上担当・少人数指導)
 - ・自主学習ノートの作成(学力向上担当・3年生以上の担任)。
※よい自学ノートを掲示する等、よいモデルを提示することで、家庭学習の質の向上及び意欲化を図る。
 - ※「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用の奨励、家庭学習マイスター賞への応募の奨励にもつなげる。
 - ・「家庭学習の約束」の作成・実施及び家庭学習の啓発(担任)
 - ・冬休み・春休みの宿題に、過去問題やアシストシート、WEB問題を活用(学力向上担当・少人数指導・担任)
- ◎ 全国学力・学習状況調査の課題と取組等を保護者へ周知
 - ・学校便り・学校HP(校長・学力向上担当)